アヘン戦争の舞台裏（ヘブライの館）

◆阿片売買のために、上海へ先陣を切って乗り込んだのも**「サッスーン洋行（沙遜洋行）」**だった。
１８４５年、上海の目抜き通り（現在の江西路と九江路の交差点）に支店を開いた。
当初、**上海の阿片貿易の２０％を占める**ほどの大取引に携わり、人手が足りずに１４人もの親族を呼び寄せ、業務拡大した。

◆１８６４年、創業者の**デビッド・サッスーン**が亡くなると、「サッスーン洋行」は長男が引き継ぎ、次いで次男が独立して「新サッスーン洋行」を開業した。
新旧の「サッスーン洋行」は、互いに協力しながら、インドのケシ畑の“青田買い”をしたり、独占買い付けをしたりしながら、アジア全域に幅広いネットワークを築いた。　〈中略〉
１８７０年代には、「サッスーン洋行」はインドの阿片貿易の７０％をコントロールするまでに成長するのである。

◆**「ジャーディン・マセソン商会」**と**「サッスーン洋行」**――。
この２つの巨大商社を筆頭にして、**その後も続々と貿易商社が進出**してきた。
「デント商会（宝順洋行）」、「ギブ・リビングストン商会（仁記洋行）」、「ラッセル商会（旗昌洋行）」などのイギリスとアメリカの商社がいる一方、中小の地元商社やアジアからの商社などが雨後の竹の子のように増え続けた。
不確実な数字だが、**外国の商社は１８３７年に３９社だったものが、２０年後には約３００社に増え、１９０３年には、なんと６００社以上にものぼったという。**

◆欧米の商社が業務を拡大し、取引金額が増えるに従い、なにより頭を悩ませたのは**資金の安全な輸送方法**だった。イギリス流の解釈では、「イギリスが中国から資金を取り戻す」ための安全で迅速な手段が必要とされたのである。
よいアイデアはすぐに浮かんだ。**銀行の設立**である。
１８６５年３月、「サッスーン洋行」、「ジャーディン・マセソン商会」、「デント商会」らは１５人の代表発起人を決め、資本金５００万ドルを投じて香港に**「香港上海銀行（ＨＳＢＣ）」**を設立した。**サッスーン・グループのアーサー・サッスーンら８人が理事会役員に就任**し、１ヶ月後には上海で営業を開始した。
「香港上海銀行」の最大の業務は、**阿片貿易で儲けた資金を安全かつ迅速にイギリス本国へ送金すること**であった。

HSBC
The world's local bank

１８６５年に、ロスチャイルド一族のメンバーであるイギリス系
ユダヤ人のアーサー・サッスーン卿によって香港で創設され、
１ヶ月後に上海で営業を開始した**「香港上海銀行（ＨＳＢＣ）」**。

この銀行の設立当初の最大の業務は、アヘン貿易で儲けた
資金を、安全かつ迅速にイギリス本国へ送金することであった。

この銀行は、第二次世界大戦前、上海のバンド地区を中国大陸の本拠と
していたが、１９４９年の中国共産党政権成立後の１９５５年に、本社ビルを
共産党政権に引き渡した。その後、中国各地の支店は次々に閉鎖された。

しかし現在、この「香港上海銀行」は、英国ロンドンに本拠を置く世界最大級の
銀行金融グループに成長している。ヨーロッパとアジア太平洋地域、アメリカを
中心に世界７６ヶ国に９５００を超える支店網をもち、２８万人の従業員が働き、
ロンドン、香港、ニューヨーク、パリ、バミューダの証券取引所に上場している。

時価総額規模では、アメリカの「シティグループ」、「バンク・オブ・アメリカ」に
次ぎ世界第３位（ヨーロッパでは第１位）である。現在、香港の「中国銀行」
及び「スタンダード・チャータード銀行」とともに香港ドルを発券している。